

【シンポジウム】 平成26年度油屋熊八大学校開講記念事業

中山昭則

Akinori NAKAYAMA

平成26年6月28日（土）、別府市観光協会主催、別府大学国際経営学会共催による標記事業が開催された。これは報告者が平成25年度から講師を務めている「油屋熊八大学校（以下、熊八大学校）」の今年度の開講を記念して開催したものである。熊八大学校は浜田博別府市長が掲げる「油屋熊八の精神を受け継ぎ、観光地としての価値を高める」ことを広く市民に働きかけることを目的として始まった。市長が校長を務め報告者が講師を務めてきた。2年目の今年度は本学を会場として学生たちも受講生として参加した。今年は報告の開講記念事業を皮切りに8月までに計4回の講義を行った。

記念事業では、最初に第一部として「未来志向の別府観光の構築～私たちにできること～」と題して、阿部ゼミ、中山ゼミ、旅と地域の研究会の3グループの学生たちが発表した。

第二部は、まず浜田校長が「ONSEN ツーリズムの更なる発展に向けて～人材育成と地域資源の活用～」と題した基調講演を行った。この中で、これからの別府温泉の発展は人材の発掘と育成がカギを握ると強調された。引き続き同じタイトルでシンポジウムが行われた。パネ

ラーは阿部邦和（大分県企画部観光・地域局長）・西村明（元別府大学学長）・浜田博（油屋熊八大学校長・別府市長）の3氏に務めて頂いた。コーディネーターは報告者が担当した。活発な議論が交わされ、阿部局長は「おんせん県おおいた」キャンペーンの中心として別府が担う役割の重要性について強調された。西村元学長は熊八は海外に飛び出して、異文化の体験に中から別府で活躍するアイデアと精神の礎を形成したと学生たちに説いた。最後に校長からは人材育成の重要性について重ねて強調された。

記念事業には大勢の一般市民の方々、学生たちを含めおよそ150名が参加した。

熊八大学校は、7月16日（水）に第2回目講座を開き「別府観光の成り立ち」について講義した。第3回目は7月23日（水）に行い、「観光研究成果を踏まえて」と題して講義した。最終回となる第4回目は8月6日（水）「キャッチコピーから考える」をテーマとした。30名以上の受講生が熱心に耳を傾けてくださった。学生たちも普段の講義とは違った雰囲気の中で新たな刺激を受けたようだ。講義終了後、浜田校長ご臨席のもと修了式が開かれ、受講者に「終





了証」が手渡された。

受講生はその後レポートを提出し、現在観光協会が作成中である。加えて、受講生の多くは10月から始まった“中級編”も受講し、観光ルート策定といった、より実践的なスキルの獲得を目指した。この中級編は実務者を講師に迎え、プロ並みのおもてなしのスキル獲得を旨として開講された。

今回は、国際経営学部の「国際経営学会」に共催という形でご協力いただいた。会場設営から当日の学生指導まで、国際経営学部教員各位には並々ならぬご尽力をいただいたことをここに記し深く感謝申し上げます。そして、講師を務めて下さった浜田博市長、パネラーとしてご登壇いただいた阿部邦和局長および西村明元学長に感謝申し上げたい。